



新たなスタッフを迎え新年度がスタートいたしました。
令和7年度も当機構の技術コーディネーターを中心に、関係機関や団体と連携し積極的に事業に取り組んでまいります。
今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。



令和7年度事業の計画について

ものづくり企業を取り巻く状況は、少子高齢化や労働力人口の減少、エネルギー・原材料価格の高騰、脱炭素社会実現に向けた取り組みなど、様々な課題に直面しており、サプライチェーンの強靱化や生産能力の安定的な確保、DX(デジタルトランスフォーメーション)に向けたイノベーションの推進が求められています。

当機構では、設立原点である「ものづくり企業への支援を通じた福島県産業振興」を図るため、圏域企業の研究開発の促進・新事業の創出育成・技術の高度化・デジタル活用・人材育成など、積極的に取り組んでまいります。

これら事業の実施に当たっては、日本大学工学部・行政・研究・支援機関・福島イノベーション・コースト構想・福島国際研究教育機構(F-REI)等と連携し事業を展開してまいります。

重点事項として、大きく3つの事業に取り組めます

- 1 ものづくりインキュベーションセンターの運営（新事業創出育成事業）
- 2 人材育成・研究開発促進（技術振興事業）
- 3 起業化育成・支援（地域技術起業化推進事業）

I 【新事業創出育成事業】

ものづくりインキュベーションセンター入居企業の研究・産学連携支援。施設の活用促進・適切な管理運営。



インキュベーションセンター入居者の活動発表

II 【技術振興事業】

- (1)産学連携による人材の育成 マイスターズ・カレッジの開催
- (2)技術情報等の提供

NUBIC(日本大学産官学連携知財センター)との連携による、技術相談・指導。



サステナブル地域づくりフォーラム

III 【地域技術起業化推進事業】

アライアンス形成会議を中心に、ロボットテクノロジー・健康医療福祉産業創生・サステナブル地域づくりの3つのフォーラムを開催するほか、須賀川方部アドホック研究会活動の支援を通じて起業家育成に努める。

今後とも、各機関との連携を深め、基本方針に掲げる目標達成に取り組んでいきたいと考えております。

令和6年度 第3回 理事会開催報告

3月24日(月)11時から郡山商工会議所会館中ホールBで、今年度第3回理事会を開催しました。滝田理事長のほか、理事9名、監事2名が出席のもと、令和6年度業務執行状況・補正予算や令和7年度事業計画・当初予算が審議され、原案どおり承認されました。

令和7年度事業計画では、ものづくり企業支援のために積極的な事業展開を図ることが議論され、「ものづくりインキュベーションセンター」の活用の他、産学連携による人材育成事業であるマイスターズ・カレッジ等が承認されました。



藤カマnderソフト株式会社

【会社創業の経緯】

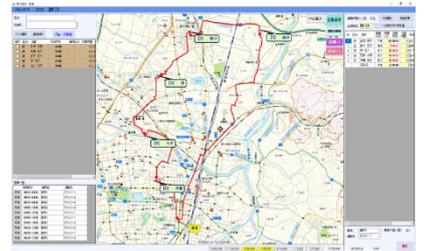
昭和39年、白黒テレビが家に届いたことをきっかけに、その仕組みに強い興味を抱き、将来はコンピューターの世界で働くことを決意しました。専門学校卒業後、仙台市のシステム会社で8年間経験を積み、技術と知識を磨きました。そして平成3年3月、「無限の可能性に挑戦する開発集団」という理念のもと、5名の仲間と共に会社を設立。未知の技術に挑戦し続ける姿勢を貫き、成長を続けています。

【現在の事業内容】

弊社は、企業向けパッケージソフトの開発・販売・サポートを一貫して行っております。これまでに、運送業・タクシー事業所・自動車学校向けの配車支援システム「イマくる」や、米穀卸売業者向けの「販売管理システム」を全国約250社に提供してまいりました。業種や業務に応じたカスタマイズを低コストで提供できることが、弊社の最大の強みです。

【今後の目標】

現在、地方では人口減少と高齢化が進み、公共交通の維持が困難な状況にあります。こうした課題に対応するため、弊社はこれまで培ってきた配車システムのノウハウを生かし、「デマンド交通システム」を開発しました。本システムを活用し、地域交通のICT化を支援するとともに、地方創生と地域活性化に貢献できるよう、持てる技術と知見を最大限に生かしてまいります。



「デマンド交通システム」

藤カマnderソフト株式会社
代表取締役 伊藤 博

退任のごあいさつ

令和7年3月31日付

令和2年3月末に福島県を退職し、同年4月から事務局次長兼総務部長として5年間在籍させて頂きました。薄氷を踏む思いをしたことも何度かありましたが、試行錯誤を繰り返しながら、何とか5年間務めさせて頂くことができました。故鈴木前局長をはじめ、これまでお付き合い頂きました皆様に対しまして心より感謝を申し上げます。

今後は、まだ半分を残していますが、日本百名山全山踏破を目指し、日々鍛錬して参りたいと思っております。最後に皆様の今後益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げて、略儀ながら退職の挨拶に代えさせて頂きます。

事務局次長兼総務部長 後藤 隆

私は2年間にわたり公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構にお世話になり、ものづくり企業への支援活動を行う中で皆様からいただいたご支援に心より感謝申し上げます。

自治体(郡山市)からの出向という形で、地域のものづくり企業の発展に少しでも貢献できればとの思いで取り組んできました。支援を通じて企業の皆様の成長を見守り、ともに課題に取り組んだ日々は、私にとって非常に貴重な経験となりました。特に、現場の皆様が直面する厳しい状況や新たな挑戦に対し、少しでも力になれたことは、私の大きな誇りです。これからも地域の発展を見守り、微力ながら尽力してまいります。

また、機構の皆様には温かく迎えていただき、業務を円滑に進めるために多大なサポートをいただきました。共に働く中で、多くのことを学ばせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にお世話になりました。

企画管理課長 古川 智志

